

2021年度 滋賀会第3回研修報告

滋賀森林インストラクター会

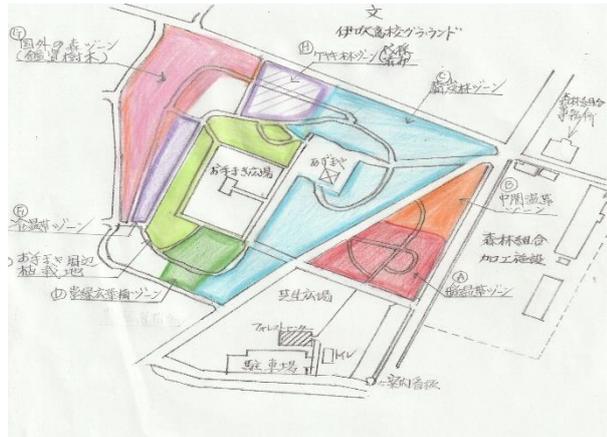
- ◆実施日 2021年10月24日(日)
- ◆研修先 県立きゃんせの森(午前)、奥伊吹の巨木・ふるさと伝承館(午後)
- ◆行程 県立きゃんせの森10:00~13:00→上板並(乳銀杏)13:10~13:45→吉槻(カツラ)13:55~14:05→甲津原(伝承館)14:25~14:45→きゃんせの森15:25(解散)
- ◆参加者 (本日)小西、高橋、上萩、平田(2)、橋木、関澤、高田、高森(一般)、下川10名(下見)佐々木、森上、下川3名
- ◆研修の概要 午前中は、県立きゃんせの森内のドングリが実る落葉広葉樹・常緑広葉樹を中心に観察を行った。午後からは、県道40号線沿いの姉川上流域をさかのぼり、上板並地区(銀杏巨木)→吉槻地区(カツラ巨木)→甲津原地区(山村文化資料館)の順に各々見学を実施した。



今日の研修は「きゃんせの森」からスタート！(午前)



吉槻のシンボルツリー「カツラ」(午後)



ドローン撮影による県立きゅんせの森の
全景（撮影：上萩氏）

○県立きゅんせの森

昭和 50 年の第 25 回全国植樹祭お手播き会
場。既存の森に加え 150 種類、1000 本
程の樹木を植栽。その際、冷温帯・中間温帯・
暖温帯等の気候区分（ゾーン）ごとに分類
し、各々の代表的な樹木を展示林として植
栽してある。



ウラジログアシ（コナラ属アカガシ亜属）の
葉。本来は葉裏がロウ物質で白く見える
が、交雑しているのか白くなかった。



アオキミフクレフシ アオキミタマ
バエによって、実が不規則に膨れて
変形したもの。内部には一匹から複
数の幼虫が入っているらしい。



ブナの葉（ブナ属）日本海側のブナの葉
は、太平洋側の葉に比べて薄くて大き
いのが一般的。



アカガシ（コナラ属アカガシ亜属）の葉。葉柄は長く、葉に鋸歯はなく全縁。



アカガシのドングリ 殻斗は黄褐色の密毛に覆われピロードのようで、10層ほどの輪状。



オオツクバネガシの葉とドングリ。
アカガシ×ツクバネガシの雑種で、ツクバネガシよりやや幅広の葉をもつ。



オオツクバネガシ（アカガシ×ツクバネガシ）のドングリ（左の拡大版）



ナラガシワ（コナラ属）の幼木
親木から少し離れたところですくすくと成長中。



ナラガシワ（コナラ属）のドングリ
殻斗はお椀型で、鱗片は鱗状で密に圧着する。



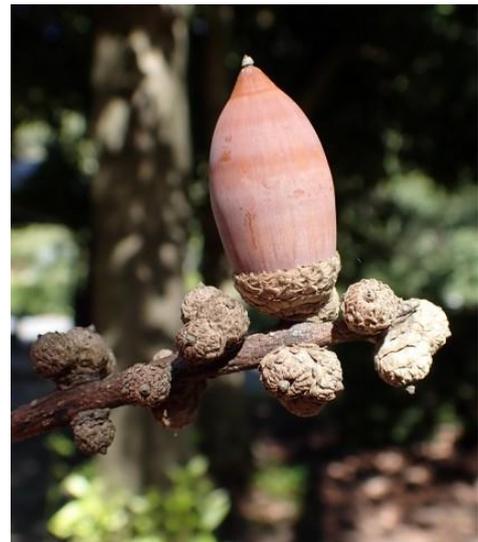
ツクバネガシ (コナラ属アカガシ亜属) の葉



ウバメガシ (コナラ属コナラ亜属) の Donguri。殻斗はさかずき状で浅い。円い鱗片が覆う。



クヌギ (コナラ属コナラ亜属) の Donguri。殻斗の鱗片の先は Donguri を囲んで反り返る。



マテバシイ (マテバシイ属) 殻斗は浅いお椀型。お尻が少しへこんでいる。



第 25 回全国植樹祭 (昭和 50 年) を記念したモニュメント。



その際の記念のヒノキが今も広場に 3 本残る。



クスギ、マテバシイの切り株から萌芽更新して育つ幼木。



平成 30 年 6 月 29 日の午後に当地付近で発生した竜巻（強さ JEF2、風速 65m/s）により、きゃんせの森内でも多数の樹木が折損した。その爪痕は 3 年後の今も残る。

「きゃんせの森」から「乳銀杏」へ移動中に発見した森の恵み。



ツリフネソウ（ツリフネソウ科）



ツノハシバミの総苞から丸い堅果が見える。



食べるには、外皮をむく必要あり。固い！



「乳銀杏」から「吉槻のかつら」へ。路上の落ち葉からは「マルトール」の甘いカラメルの匂いが漂っていた。



- ・名称 諏訪神社の乳銀杏
- ・樹種 イチョウ
- ・樹高 33m
- ・幹囲 6.9m 県の幹周順位 2位
- ・推定樹齢 300年以上
- ・所在地 米原市上板並
樹高・幹囲・推定年齢は、環境庁「日本の巨樹・巨木林 近畿版」(1991)による。

イチョウの大木からは、約 20 本の気根（乳柱）がぶら下がっている。米原市の指定文化財に昭和 46 年指定（天然記念物）されている。

新たに、平成 30 年滋賀県緑化推進会から、「淡海の巨木・名木次世代継承事業」の第 47 号に認定された。

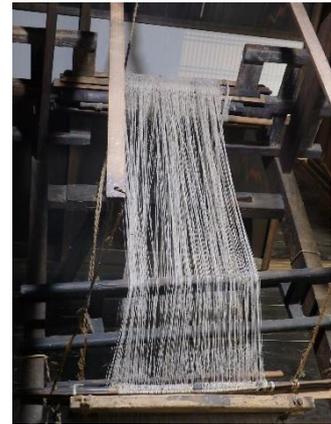


- ・名称 吉槻のかつら
- ・樹種 カツラ
- ・樹高 16m
- ・幹囲 8.1m
<県の幹周推定順位 5位>
- ・推定樹齢 1,000 年以上
(現地説明板より)
- ・所在地 米原市吉槻
樹高・幹囲は、環境庁「日本の巨樹・巨木林 近畿版」(1991)による
カツラの木は、県道 40 号線から集落に 30m 程入ったところにある。この坂は、地元では「桂坂」と呼ばれ旧伊吹町の民話『いろりばた』にも登場している。吉槻地区のシンボルツリーとして住民から大切にされてきた。滋賀県「自然記念物」に指定されている。

「吉槻のカツラ」から「奥伊吹ふるさと伝承館」(資料館)



隣村曲谷産の石うす



江戸時代から現在地に残る入母屋造りの茅葺民家(越前Ⅲ型)。内部には、甲津原地区の特産物の「麻織物」の道具類や厳しい山村の暮らしを支えた生活用具等が展示されている。甲津原を含む4集落(甲津原・曲谷・甲賀・吉槻)は、平成26年度に「東草野の山村風景」として国の「重要文化的景観」(=重要文化財)に登録されている。



今回の第3回研修は、午前中のきゃんせの森での自然観察に加えて、午後からは奥伊吹地域に出かけて、古くからある山村地域の自然や生活文化の一端に触れようと計画しました。しかしながら、結果としては表面の一部を少しかじっただけに終わり残念でした。今後、もし再訪する機会があれば、更に掘り下げた活動ができればと考えます。(下川)

* 「奥伊吹ふるさと伝承館」をバックにドローンを使い集合写真を撮影。(上萩氏撮影)